



# 共同通信



2010年12月19日 172(382号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

## To tell the story 72 「40歳初めの一步」

大人になったら栄養士になって大好きな給食を沢山食べたい！

「なーちゃんはねーバレーボールの日本代表！」(あれ！幼稚園の時は石堂先生のような先生なんて言っていたはず・・・)

「もーちゃんはねー介護福祉士！」(これまた幼稚園の時は美容師だったのでは・・・)

「こうちゃんはねー機械の開発者。」

我が家では子どもたち(中1の長女、小6の次女、小2の長男)とこうした会話が良く出ます。

今年の1月より仕事を始めました。社会復帰は14,5年ぶりです。

なかなかこんなにブランクがあると仕事を始めるには相当な覚悟が必要とっておりましたが、思い付きのように行動しました。きっかけは子どもたちの夢を聞いているうちに私も自分の夢を追いかけたくなったからです。

思ったら吉日。仕事探しを初めて幸運にもすぐに採用が決まりスタートしました。その仕事は契約期間が5ヶ月でしたが、私が幼いころの夢「給食を作る仕事」でした。

朝、専業主婦のときより1時間早く起き家事をこなし子供たちの登校と同時に出勤。栄養士の資格を持っていたためか、研修なども無くいき

時代にふり回されるのではない  
あの時 心を躍らせて生きた  
後悔に 身をふるわせたこともある  
笑い 泣き 歯ぎしりをした  
今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい、  
自分の人生を語ってほしい

なり初日から2つのおかずとアレルギー食、おやつの責任を持たされ正直くじけそうになったこともあります。失敗したり成功したり毎日刺激的な生活を過ごしておりました。でもなんだか毎日が楽しく過ごせたのです。子育てと家事だけでも大変な毎日と思っていたのに、これに仕事に加わっても何とかやっていけるなんて、自分の持っていたエネルギーの大きさに初めて気づかされました。(家族の協力あっての家事ですが・・・)

そんな充実した日々を送っていたころ、幼稚園で知り合ったママ友石川さん(ご主人はのびーるの会)からうれしいお誘いをいただきました。「障害者のデイサービスの仕事をしてみないか？」と声をかけていただいたのです。

2～3年前に石川さんから障害者施設で働き始めたという話を聞き、身近に主婦というブランクを乗り越えて仕事に復帰された方がいたことに感動しましたし、同時に幼かったころの「障害者福祉に携わってみたい」という夢がよみがえりました。そう私の夢は1つだけではありませんでした。(欲張りだったのですね・・・)

保育園、小学校のクラスメイトで自閉症というハンディーキャップを持っている千秋君との出会いがありました。彼が気になり彼のお世話ば

かりして彼から嫌われておりました。何で自分の好きなことを好きなだけ思う存分やり遂げられるのか、彼が不思議でもあり尊敬もしていたと思います。そんな彼のようなハンディーキャップをもった人たちの応援がしたいと強く思っておりました。

学校を卒業して食品メーカーに勤めておりましたが、やはりそのことが大人になっても忘れられなく会社を退職し、求人も出ていない行政などに何度も足を運び頭を下げようやくある所属の課長さんに障害者施設の栄養士契約職員としての採用を紹介してもらい、1年ほどの短い期間でしたが念願の環境での仕事をすることができました。

そして今度は石川さんからもう一度夢を叶えるチャンスをいただけるなんて胸が躍りました。

現在その石川さんに紹介していただいたデイサービスにお勤めしてもうすぐ7ヶ月。

今度は介護職員として働いています。業務はコミュニケーション、食事介助、トイレ介助など未経験なことばかり。初めのころは毎日何度も注意を受け落ち込むこともありましたが、最近ではなぜか苦にならず、そのいくつかの注意が自分への肥やしに思えてきて楽しくなっています。まゝ年を重ね図々しくなってきたりしているのかもしれない・・・。

子どもたちには、夢を実現するのは大変と思わず、とにかく恐れることなく外へ出ていろいろ体感してほしい。

そこで出会った人々や自然などにふれあうことで影響を受け、自分の未来への発想が湧くはず。

そして子どもたちは夢は必ず実現すると信じ、一歩踏み出してほしいと願っています。

そんな思いがあって、2010年は子どもたちに示す意味で私から最初の一歩を踏み出しました。

子どもころは「大人になったら栄養士になって大好きな給食を沢山たべたい！」と夢を見ていた私、これからはカルガモのたくましい親ガモのようにになりたい・・・これが新たな目標、夢です。

私の願いの根源はここ共同幼稚園の出会いから、先生方はじめお母さん方に刺激をもらい、そして沢山たくさん助けていただき成長できたことと感じております。

お世話になった方々にお礼と感謝の気持ちをこめて・・・そして来年も皆様にとって良い年となりますようお祈りしております。

(大字 尚子)

子ども時代の私にとって、本は窓だったのだと思います。閉じ込められて、部屋に入れられて、子どもは息苦しいわけです。外を見たい、いろいろなものを見たいと窓辺に寄り、窓を開けるとつまり本を開くとそこはいろいろな世界があり、いろいろな人たちがいる。私はかすかに記憶しているのですが、「そうか、遠い国にも私たちと同じ人がいるのだな」と思ったものです。笑ったり泣いたり怒ったり悲しんだりしている人間が他所の国にもいるとらことを知ったのは私にとって大きな力となりました。

(清水真砂子)

イエス・キリストの福音のはじめ、で始まっているのは、言うところの福音がイエスその人に由来することを、何より強調したいからです(1章1節)。その福音のことが「・・・イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。『時は満ちた。神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ。』」と、イエスの言葉として語られる(語らせる)時、それはイエスの活動の全体です。「マルコは単に『福音』と言えば、それは即ち、イエスがかつて生きていて語り、なしたこと、イエスの活動の全体を指す」(田川建三訳著「新約聖書」訳と註)

イエスの活動の全体を、福音及び福音書として書いたのが、マルコによる福音書なのです。イエス自身も、福音という言葉を使いながら、自分の活動について語ったりしています。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うてわたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思うものはそれを

失い、わたしのため、また福音のために、自分の命を失う者は、それを救うであろう」(8章34、35節)。わたし(イエス)は、福音そのものなのです。そして、わたし(イエス)についていくことが、福音を生きることだとも語り、それは以下のようなことにもなったりします。「邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた・・・その者を恥じるであろう」(8章38節)。イエスの活動の全体は、この場合には時代や状況と真正面に向かい合い、かつその結果も引き受けることだったりします。時には、時代や状況が邪悪だったとしても、それを見極め真正面に向かい合って生きるイエス、そのイエスに“ついていく”ことを、マルコによる福音書がその福音理解として指します。

ルカによる福音書では、福音がそれだけで使われていなくて、「神の国の福音」になります。あるべき神の国があってはじめての福音なのです。

「そののちイエスは、神の国の福音を説き伝えながら、町々村々を巡回し続けられた」(8章1節)。この場合のイエスは、神の国の福音を説き、また伝える人であっても、福音そのものであるとは理解されていません。イエスが、説き伝えるのは、あるべき神の国について語ることに、即ちそれが福音であるとルカによる福音書は福音を理解しています。

ローマ人への手紙も、福音で始まります。「キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び別たれ、召されて使徒となったパウロから この福音は、神が、預言者たちにより、聖書の中で、あらかじめ約束されたものであって、御子に関するものである・・・」(1章1、2節)。福音は「御子に関するもの」で、その御子は「肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた」、主イエス・キリスト即ち福音ということになります。そして、パウロの場合、イエスについていくということは、「わたしは、異邦人を従順にするために、キリストがわたしを用いて、言葉とわざ、しるしと不思議との力、聖霊の力によって、働かせて下さったことの他には、あえて何も語ろうとは思わない」で、ほぼ言い尽されます。ということになりますから、イエスの活動の全体を福音と理解しないのはもちろん、「御子

は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死人からの復活により、御力をもって神の御子と定められた」「人」ということになります。そこからは、生きたイエスの活動全体などという視点は全く無いに等しくなります。しかし、イエスは生きていたし、生きていてその生身の体を引き裂かれるようにして、十字架で刑死しました。ただ“死人”になって、ただ御力(神の)一方的な働きかけで復活した訳ではありません。パウロは福音について「わたしとしての切なる願いは、ローマにいるあなたがたにも、福音を宣べ伝えることなのである。わたしは福音を恥としない。それはユダヤ人をはじめ、ギリシャ人にも、すべて信じる者にも、救いを得られる神の力である」そして「神の義は、その福音の啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる」とも言っています(1章15、16、17節)。しかしこれではイエスが“死人”になったこと、そしてその“死人からの復活”の理由については、何一つ語ったことにはなりません。

という、パウロの福音理解があり、ルカによる福音書の神の国の福音理解があって、マルコによる福音書はイエスの活動の全体がそのまま福音であると理解しています。

(菅澤 邦明)

「教会と聖書」は、2010年12月16日の“北村慈郎先生応援特集号外”を発行しました。その号外に、西宮公会教会幹事会は教団に送付した“北村慈郎牧師免職に関する西宮公会教会の見解”を寄稿しました。

日本基督教団総会議長様  
常議員会様

### 北村慈郎牧師免職に関する 西宮公会教会の見解

北村慈郎先生は、紅葉坂教会において教会の決議の下に行った配餐（未受洗者も含む）が、日本基督教団の教憲・教規に“違反”にあたるとして、2010年1月26日、日本基督教団から教団の牧師職免職の戒規処分を受けることになりました。

西宮公会教会は、この一連の出来事を始めから「他の教会の出来事」とはせず、常に“私たちの教会”のこととして見つめてきました（ ）。

人が造りだした“区切り”（教憲・教規）によって、人が人を処分するということは、今までもキリスト教の歴史の中で繰り返されてきました。今、私たちがそのような現場を目の当たりにするにあたって、それを見過ごすことは出来ません。

北村慈郎牧師免職の戒規処分について強く抗議し、教団が“一致”という名の下に独善でなした処分の撤回を求めます。また、現在北村慈郎先生

地位保全の為の仮処分、そして本格的裁判になった場合も、西宮公会教会は支援する決意です。

2010年12月12日

日本基督教団西宮公会教会幹事会

付記：西宮公会教会は、1970年代の初め、多数を理由に牧師を解任しようとする出来事を経験したことを踏まえ、礼拝はもちろん、教会のすべての集まりで、受洗者、未受洗者は区切らない教会のあり方を目指してきました。

そして何よりも“私たちの教会”のことであるのは、北村慈郎先生や紅葉坂教会の「この世で最も小さくされた者」と共に歩む教会は、西宮公会教会の願いそのものだからです。

北村慈郎先生の免職の決定が、“この世で最も小さくされた者”を排除しないことを、教会の歩みの基本にし、未受洗者への配餐に踏み切る、教団内の多くの教会の意志や願いを踏みにじるのは残念であると言わざるを得ません。

## ~今月ののり~

たのしいことも、 つらいことも、 自分たちなりに受け止めて今年も歩んできました。 心が晴れている時はあなたが共にいることを感じ、 心に雨が降っている時はあなたを探して、 歩んできました。

神さま、 あなたがこの寂しい世の中に降り立ったのはなぜか、 いつも考えています。 人が人を求めて生きねばならないことを疎ましく感じてしまう時もあります。

けれど、 神さま あなたはただ一方的に愛して下さいました。 どれだけ暗く、 寂しい世でも、 求めた人がそばにいらなくても、 それでも人は希望を持っていれば生きていけるのだと、 教えてくださっています。

もうすぐあなたが生まれたことを記念する日を迎えます。 心穏やかにその日を迎えることができますように、 導いて下さい。

(大平 有紀)

## “ クリスマスまでの日々 ”

11月22日、にしきた点灯式が行われ、幼稚園の前の津門川や高松公園などのイルミネーションがきれいに輝きだしました。そのころから幼稚園でも、クリスマスの歌やクリスマスの絵本を楽しんだり、“クリスマス”が近づいていくのを毎日わくわくしながら過ごしてきました。子どもたち一人一人に、1セットずつ配られたアドベントカレンダーは、おうちの方と楽しみながら作ってもらえる手作りのアドベントカレンダーです。さっそく、家で作ったカレンダーを写真に撮って見せてくれたりと、

それぞれ家でもクリスマスまでの日々を楽しむ姿が見られました。

クニさんとミカちゃんをお迎えしての“クリスマスコンサート”、幼稚園の子どもたちの他に新入園のお友だち、もっと小さなお友だちも集まったの時間でした。きれいなピアノの音、マリンバの音色に釘づけ、知っている歌が聞こえてきたらもちろん一緒に歌い、まねっこしたり大笑いしたり~。子どもたちからのお返しの歌に「ビリーブ」を歌い、なんとミカちゃんがその場で曲に合わせてマリンバでの演奏をして下さいま

した。何とも言えない温かい気持ちでコンサートの時間を過ごさせていただきました。

毎日がクリスマス！？というくらい、ワクワクの時間が続きます。“お楽しみランチ”は、今年は2日間！全クラスで楽しむことができました。1日目は先生たち、子どもたちと作ったさつまいものサラダ、マカロニスープです。くじ引きでランチを食べる部屋を決めて、いつもとは違うメンバーで、学年を越えて同じ時間を過ごしました。もしかしたら初めておはなしした！というお友だちもいたのではないのでしょうか。年長さんは優しく声をかけてあげていたり、「こっちだよ」と教えてあげていたり、子どもたち同士のいろんな姿がみられたのです。ランチ2日目は、12月の誕生日会も一緒にです。なんと全クラス2階に集まってのお昼の時間となりました。この日はお母さん方が作って下さった“にしきたごはんバーガー”とスープです。そしてフレデリックの黒ゴマケーキも登場しました！パーティー会場のように2階の部屋が大賑わいのひとときとなりました。

今年の合同子どもクリスマスは、先生たちの音楽隊 と言うことで、ドキドキしていた先生たち。昨年から、ピアニストの城村奈都子さんが私たち音楽隊の演奏を助けて下さっています。クリスマスの曲や今年度

披露した曲を織り交ぜながらのメドレー、当日は城村さんのピアノが華やかさを添えて下さり、素晴らしい時間となりました。今まで使ったことのない楽器や、新しいことに挑戦しながら、音楽を楽しむということを教えて下さり、こうして子どもたちや、たくさんの大人の方々と、音楽を通して同じ時間を過ごせることに感謝いたします。

子どもたちの笑顔のために、多くのお母さん方や、周りの大人の方々が心を込めて準備をして下さり、本当にクリスマスに囲まれた毎日を過ごすことができました。寒さが厳しくなっていく毎日ですが、こんなふうに心が温かくなる、そんな時間がこれからも守られますように。

(近山 佳奈)

## すずや便り

こんにちは。12月らしくない暖かさですが、今年もあと少しになりましたね。9月の終わりに始まった今の仕事もあと少しで終了です。今回は、いろいろな立場の人たちとの出会いが非常に印象的でした。パーティー越しに聴いた大学の先生の授業はとても興味深く、マーケティング論では「マーケティングの狙いは販売を不要にすることである～P. ドラッカー～（例：windows7を夜中に行列して購入する）」など、身近なことを言葉で説明してくれます。すると、今まで何気なく見過ごしていたものが意味を持って迫ってくるような感覚になります。民法の講座も同じく法律家というのはこういうものか、という話ばかりで（それが一人芝居を見ているようにおもしろかった）改めて法律を勉強してみたくなりました。

そして、助手の皆さん。20代後半の大学院生と話をすること自体まず無いことですが、そこに留学生という要素が加わります。さらに、経済を勉強している人たちなので「高度経済成長」から始まり「日本のバブル期～崩壊まで」「リーマンショック」など、わかりやすく解説してくれるのです。経済という視点からの日本近代史？という感じで自分の知識のなさを痛感します。負けてばかりも

いられないので、バブル期に社会人だったという強みを生かして経験者としての話をしたり...（どんな経験？）。今まであまり使っていなかったところをフル回転させているような日々でもありました。

仲良くなってくると、仕事以外の話も増えてきます。一番盛り上がるのは食べものの話。わが家の秋の風物詩？朝ごはんは「自家製イクラ丼」と、言った時の顔は忘れられません！生モノがダメだったのですね。私は羨ましがらせようと話したのに～全然喰いついてくれませんでした。焼き鳥の「鳥皮」も「肉じゃなくて、皮じゃないですか！」と批判的。「でも、日本では人気なんですよ」と、フォローしてくれましたが。そうです、私も大好物です。中国では串焼きというと「羊」か「牛」だそうです。女性陣には、アニメだけでなく、「嵐」ファンもいることが判明！ライブDVDを借りるなど、娘も喜ぶお付き合いになりました。また中国の地図を見ながらそれぞれの出身地を確認。お勧めスポットを教えてもらいました。ロシアとの国境にある「興凱湖」は砂がとってもさらさらで気持ちがいいそうです。みんなが中国に戻ったところに遊びに行く夢ができました。今の時代、メールという便利なものがありますからね。こんなに前向き 9

気分で仕事を終われるとは、縁は異なるもの（味なもの）です。終わりよければすべてよし、皆さまも良いお年をお迎えください。

（富家 香麻里）

## みかん便り

最近、ずいぶん寒くなってきましたね。季節の変わり目に見事に風邪をひいてしまいました。11月はなかなか良い月でした。特になにがあったのかと聞かれると、全く何もなかったのですが、小さな幸せを毎日、少しずつ感じる事ができたと思います。

友情、恋愛、勉強、バイト、それぞれを振り返ると思いのほか充実していたと思います。周りには冗談を言い合える友達がいて、大きなけんかもしましたが、仲直りの際、相手の良いところをまた一つ見つけることができました。わがままばかりの僕と仲良くしてるぐらいなんで、よっぽど良い奴なんでしょう！恋愛面でも、好きな人から1通メールが来るだけで、すごく心がバクバクいったりします。恋ですね。恋です。飯も一緒に行けました。念願叶ったぜい勉強は、めずらしく毎日学校に行き研究発表の会議を行っていました。2週間のインド・ネパール旅行で気付いた事・学んだ事を2回生の前で発表しなければいけません。会場はキャ

パ350人くらいのホールでめっちゃ緊張です。でも、踊りを辞めてから久しぶりに（ちょうど1年くらいかな？）舞台の上に立てることが嬉しくてうれしくて・・・楽しみです！でも、小さな幸せを楽しんでいると、ふいにちょっと嫌なことがあるだけでとても落ち込んでしまいます。うわーってなって、「つらいつらい」とずっとぼやいていました。落ち込むと落ち込み続ける自分ですが、今月は不思議とすぐに立ち直ることができていました。1番は周りに暖かい人がいてくれることですが、やっぱり、気の持ちようですね。

つらいときはいつもは何をしてるかな。ぼーっとしたり、踊ってみたり、音楽を聴いたり、自転車に乗りながら歌を歌ってみたり。それでも全然テンションが上がらない毎日が続くことのほうが多いです。1週間、2週間、1ヶ月とひきずることも多々あります。いつの間にか元気になっていますが、多分それは周りの助けのおかげなんやと思います。喋り相手になってくれたり、飯を一緒に食っ

たり。それをいつもは何も気づかずにしてもらってたんですね。俺は幸せ者です。

11月は久しぶりにゆっくり出来ました。8月はキャンプや静岡遠征。9月はインド旅行で、10月は教職の介護等体験。忙しいと周りを見なくてもいいし、やらなければいけないことがすでに決まっているので楽です。ゆっくりできる時間はあればある程、自分で決めなければいけないし考えなければいけない。めんどくさがりの僕には忙しい方が気が楽です。でも、暇は暇なりに充実した毎日が過ごせてよかったです。忙しかったらケンカも仲直りもすることができませんしね。

みかん便りはいつも何かその月に起きた大きなことを取り上げてましたが、周りをもっと見て、小さくても記憶に残ったことや、気づいた事も書いていこうと思います。

12月はどうなるのでしょうか。良いことあれば悪いことも起きるでしょう。でも、負けずに生活していこうと思います。では

(河村 高志)

## 教会学校から

### 《11月の活動報告》

11月7日(日)にしきたバーガーを食べる

11月14日(日)射的大会!

11月21日(日)クリスマス・ツリーを作ろう

11月28日(日)クリスマス・ツリーを作ろう

### 《12月の活動予定》

12月5日(日)のびる焼きを食べる

幼稚園の畑ののびるを使ったのびる焼きを、みんなで何度もおかわりをして食べました。園庭で、19日の「にしきた街のクリスマス～ウィーンへ行こう」で合唱する、新しいうた「おしゃべりなまず」、讃美歌の「ひさしくまちにし」、「もろびとこぞりて」の練習をしました。

12月12日(日)クリーン大作戦

津門川周辺組と四十谷川周辺組に分かれて清掃作業に出かけました。四十谷川には、河野西宮市長が視察に来て、「子どもたちが安全に遊べる街になるように」と、「子どもたちからのお願い」の文書を直接手渡しました。

12月19日(日)

教会学校のクリスマス会

礼拝の後は、幼稚園の先生たちのスペシャル・コンサート。子どもたちがハンドベルの演奏に挑戦したり、その場にいる大人たちが全員参加してボディパーカッションをしたりと、みんなで楽しみました。その後、全員が大きな円になって、メッセージ付きのプレゼントを“クリスマスの12日”を歌いながら交換しました。

2010年12月 あんなこと こんなこと...

# 大切な贈り物・津門川 9 8

## “ 津門川しらべ ”

(小学5年生 杉本悠斗)

武庫川から始まって今津港までたどり着いた「津門川しらべ」は全7回で終了です。いつもそこにある“自分たちの街の川”に改めて目を向け、自分の足で川をたどって調べた杉本君の記録を、編集部が紹介することができました。ありがとうございました。

## つとがわ 編集後記

「キャンディ・キッズ一代記」を書いて、井本英子さんの曲で歌になり、7月23日の「キャンディード前夜祭」で、子どもたちが歌うことになりました。その姉妹編になる「おしゃべり鯨(なまず)一代記」を書いて、同じ井本英子さんの曲で、12月19日の「にしきたのクリスマス“ウィーンへ行こう”」で、お母さんたちが歌うことになりました。詩・詞を書く修業をした訳でもなく、ただその時のささやかな営みに際して、ささやかな言葉を添えることで始めて、それにたまたま曲をつける人と出会って、歌になったというのが経緯です。もし、最初から歌が目的だったら、詩にも歌にもならなかったはず。ささやかな営みを共有し、ささやかな営みで人と出会うことになって、歌になって、歌ってもらう人、聞いてもらえる人との場所や時間を共有することになりました。歌っている子どもたちや、歌っているお母さんたちの様子を、うれしい気持ちでいっぱいです。

「キャンディ・キッズ一代記」は、大平有紀さんが描いた絵で、小さな小さな絵本になりました。

( K )

年々、寒さが身に凍みるような気がして、今年はこたつ布団を購入して、こたつ虫になるうかと思案しています。『こたつでみかん』ではなく、今年はいくさんの林檎をいただいて～『こたつで林檎』します

みなさんに温かなクリスマスと新年が訪れますように。

( I )

最近、小学校時代からの友人に赤ちゃんが生まれました。1月に出産予定の友人も。

また、アドレス変更のメールには(旧姓 )なんて書いてあったりしてそこから結婚したことを知ったり～。25歳なんて、子どもの頃はすぐ大人だと思っていたけれどなってみるとそうでもなかったり…。

だけど、友人たちからのおめでたい連絡を受けて「そういう歳になったんだなぁ…」と感ずることの多いこの頃です

( Y )

り母の子だなぁ(笑)なんて感じたこのメールでした。

買い物好き、服好きの私達親子です。新しい服を買って帰ると即ファッションショーの様に色々な組み合わせを試してはお互い見せ合ったり「今度貸してー！」なんて言ったり。親でありながらも友達のような存在でもある大好きな母です。最近なかなか一緒に買い物に行けず…久々に一緒にショッピングを楽しみたいなぁと思う今日この頃です。

( N )

顔にはお金がかからない、というか生来の無精者で夏は洗いっぱなし、冬はかさかさになるから止む無くクリームを塗るという程度。これと決まったものもなかった。ところが5,6年前にもらったニュージーランドのクリームがめちゃ「気持」にぴったり、それをずっと愛用してきた。で、都合でこれが最後よと言われた一ピンを大事に大事に使いつつ、それをネットで探し出して申し込んで(もらって)、いつ来るかいつ来るかと待っていたが一向に来ないまま、とうとう空っぽに。そこで、洗面台(化粧台とか鏡台はない!)のところにあった化粧水らしきものをこれは少しオイルっぽいなと思いつつ使用。ある日、連れ合いが「それってhairじゃないの？」と言う。えーっ、二人して徐に眼鏡をかけて見てみると確かに!しかし「and skin」ともある。でもそれは頭皮ではないだろうか。大丈夫じゃない?と励まされても一度見てしまうと「あたし髪用の毛用オイルを肌に塗っていたのか」。話を聞いた娘がひとつクリームをくれた。で、今はとりあえずほんとに肌用を!(のはず)。

( J )